

Voice



三浦幹夫さん
室根町第12区自治会長

profile みうら・みきお
1946年、市内室根町生まれ。高校を卒業後、岩手県の警察官に。退職後、地元の室根第12区自治会長に就任。現在、室根まちづくり協議会会長として地域の舵取りを担う。市内室根町で両親と妻の4人暮らし

「山は木材だけでなく、人材も育んでいる」

毎年6月に「森は海の恋人植樹祭」を開催しています。全国から環境保全や人とのつながりを大切にする約1500人が集まります。山が人をつないでいます。

自治会員は総出でイベント会場までの草刈りをします。きれいになった道を見ると、皆「充実感に包まれる」と口々に話します。山の手入れが、住民の心もきれいにしてくれる。植樹祭を通じて、人と山の良い環境が生まれています。最近は、若い世代の人たちも応援してくれます。

山が育てているのは木材だけではなく、人材という資源も育んでいると思います。



【写真】山肌が鮮やかに染まった栗駒山(10月1日、宮城県側から撮影)

LAST
CHAPTER

山を託す

Leave the legacy to next generation.

親から子へ。子から孫へ。かけがえのない山という資源を次代へ託す。人と山が共に生きるために、私たちができることは何だろう。耳をすませば、山のやさしい声が聴こえてくる。

私たちが山と共に生きるためにできること

市の西部にある標高1626坪の栗駒山(須川岳)。岩手、宮城、秋田3県にまたがるこの山は、四季を通して人々から親しまれている。10月1日、多くの登山客が山頂を目指しながら、錦色に染まった山並みを鑑賞した。市内から訪れた菅原由美さん(45)は「登頂の達成感と共に味わう絶景。いつまでも見ていたい景色です」と大自然のパノラマを眺め続けた。

誰にとつても、身近な山がある。東稲山、石蔵山、鶯ヶ森山、蓬萊山、館ヶ森山、室根山、矢越山。今日、私たちが山の恵みを享受できるのは、先人たちが山の声に耳を傾け、手をかけてきたからだ。山は人が積極的に関わらなければ、たちまちに荒れ、その恵みは失われてしまう。先人たちが営々と育んできた山というかけがえのない資源を、次代に託したい。

「人が山を育み、山が人を育てる」と話す三浦幹夫さん(室根町第12区自治会長)は「森は海の恋人植樹祭」を通じて、人と山の共生を願う。それは、三浦さんだけの願いではない。山に携わる人たちは皆「山は私たちの生活につながっている」と口々に話す。

私たちが山と共に生きるためにできることは多い。所有する山の境界確認、雑草の刈払い、植樹や育樹。少しでもいい、できることからでいい。私たちが耳を傾ければ、山は、やさしく語りかけてくれるはずだ。